

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471501761		
法人名	株式会社 メッセージ		
事業所名	グループホーム アミュー南蔵王		
所在地	広島県福山市南蔵王町5-20-25		
自己評価作成日	平成28年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台27-17-101		
訪問調査日	平成28年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

障害を持った高齢者に対して、良質な住まいを提供し、生活を支えることを、使命と考えており、障害を持たれる以前の“普通の生活”の回復を目指した支援に取り組んでおります。言葉で要望を伝える事が困難な方でも、以前の生活を参考にし、要望を捉えるように努めております。外出や行事などにご家族にも参加して頂き、また、入居者様目線で日々の生活の中で楽しみごとを重ね、ご利用者の喜びが職員の喜びであるような仕組み作りを行っております。地域の中で安心して過ごして頂けるよう、運営推進会議などを通して地域の方に施設を開示したり、ボランティアの方を受け入れ、交流を図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「障害を持った高齢者に対して、良質な住まいを提供し、生活を支える。」という理念を掲げ、研修やカンファレンスを行ない、利用者本位に実践している。身体拘束をしないケアについて、年間を通しての研修や事例検討を重ね、利用者の行動の意味を探り、代替案を検討し、工夫している。法人全体でも対応困難対策チームを立ち上げ各事業所を支援する体制を整えた。また、医師や薬剤師と連携し服薬の種類や量の見直しを行なっている。利用者が馴染みの人との関係を継続するために、事業所での生活状況やケアの方法について家族に説明することで、外出や友人と触れ合う機会が増えている。職員が家族の訪問時に話しかけ、意見や何気ない話から思いを汲みとり、情報を共有している。また毎月利用者の様子を手紙で知らせ、信頼関係を築いている。利用者はこれまでの生活を基に残された機能を最大限に活かし、自分のことは自分で決め、誇りを持って和やかに暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人およびユニットごとの理念を構築し、更に年間目標を設定し、その人らしい生活を送れるよう支援しております。新人職員も入社時の研修にて学習しております。	理念の目指している意味や精神について話し合い、研修やカンファレンス、事例検討を通して検証している。各ユニットの理念を職員で話し合っ て掲げると共に利用者の現状に即し、概ね3年ごとに見直している。また、年間目標を設定し、毎月発行するお便りに掲載し、家族にも伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件が商業圏であり、気軽に立ち寄って頂けるような活動は十分ではありませんが、ご近所への挨拶、施設行事のご案内を行っております。地域の方が行事に快く参加され協力して下さいます。	町内会に加入し、挨拶運動に取り組み、培遠中学校主催の「地域の高齢者をもてなす会」に招かれる等、多くの地域行事に参加している。また、事業所主催の秋祭りには住民を招き、もちつき大会で協力頂くなどの交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に向けて認知症に対する理解や援助方法について、他事業所と共に『認知症サポーター養成講座』を行い、発信しております。今後は、町内会や地域の老人会を通し、行っていきたく思っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、行事や事業所の取り組み状況などを報告し、その中での意見をケア向上に繋げています。より多くの入居者様・ご家族に参加して頂けるよう、議題の工夫に取り組んでいます。	2ヶ月に一度運営推進会議を開催している。参加者は利用者、市町村担当者を始め包括支援センター職員、民生委員、家族、地域住民など、多くの参加を得ている。認知症等の知識を伝え、クリスマス会などの行事と合わせて楽しむなど、議題の工夫をしている。出された意見や提案は実現に向けて取り組み、経過を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センター南蔵王管轄内の事業所、社会福祉協議会、介護保険課と『小地域ネットワークグループ』を形成し、地域連携について協力し合う取り組みを行っています。	毎回、市町村担当者に運営推進会議への参加を促すと共に、困難事例について相談するなど、信頼関係を築き、日ごろから連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	H27年10月のグループ会社における虐待事案を受け、虐待防止および身体拘束についての研修を行っております。身体拘束の弊害について学ぶ機会を持ち、防止について取り組んでおります。そのうえで玄関の施錠については、やむを得ない状況においてのみ行うようにしております。	身体拘束をしないケアの実践のため利用者の理解に努め、行動の意味や目的を探り、代替案を検討し、工夫している。職員について、入社時の研修の他に年間を通し身体拘束の研修、事例検討を行っている。法人全体で対応困難対策チームを立ち上げ、各事業所を支援するシステムを構築した。また、利用者の薬の服用について、「必要なときに必要な分だけ」という方針に沿って医師や薬剤師の指導を受けて見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	H27年10月のグループ会社における虐待事案を受け、以降、全職員を対象に1回2時間ほど毎月、虐待防止についての研修を行っております。日頃より気になる事があれば職員同士で声を掛け合えるよう、これまで以上に注意を払っております。また、本社で対応困難対策チームを設立し、通報窓口の周知徹底を行い、職員が相談しやすい体制を作り、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度のパンフレットを施設に設置し、研修会があれば参加していきます。また、必要性のあるご本人とご家族に、制度の活用をお勧めしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書説明時には疑問点や不安内容について、確認を行いながら、説明を行うようにしております。一度の説明では理解が難しい事も考慮にいれ、複数日かけることもあります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見ご要望カードを設置し、いつでも意見を汲み取れるようにし、頂いたご意見について話し合い職員間でも共有して要望実現に努めております。また、会社としても『お客様相談室』を設け、重要事項の説明の際にも公的窓口の案内をしております。	訪問しやすい事業所を目指し、家族に話しかけ、毎月発行するお便りと共に担当者が利用者の様子を伝える手紙を出している。このような取り組みを重ね、職員に話しやすい関係を築いている。出された意見や何気ない話から思いを汲み取り「ご意見ご要望カード」を職員が記入し、意向の把握と情報の共有に努め、早急に検討し、経過を家族に報告している	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週に1回、業務改善に関する話し合いを行っており、トップダウンではなく、職員の意見や提案を運営に反映させる機会を設けています。毎月、ユニット代表者間での会議も行っております。	毎週業務改善について活発な意見交換を行なっている。職員から出された意見について「利用者の生活を守り、理念に即しているか」と検討し、実現に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	キャリアアップ制度(昇給制度)、社外研修参加制度、資格取得補助制度を設けております。また、出産育児休業や配偶者出産休暇など、子育て支援制度も行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、ケアなどについての内部研修を行っており、また、外部研修の案内をし、希望者に参加してもらっておりますが、十分な体制とは言い難い状況です。資格取得補助制度も設けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の意見交換は十分に行えております。また、包括支援センター南蔵王管内の事業所同士で連携をとっており、事例検討会や研修会などを行っております。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面談時はもちろん、入居に関わる前から話を聴く機会を積極的に設け、入居後も日常的に話を伺うようにしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居のご相談を頂いた時から話を聴く機会を積極的に設け、入居後も日常的に話を伺うようにしております。来訪時には出来るだけ話をする機会を作り、信頼関係を築けるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に何に困っておられるか伺い、現在どのような支援を必要としているかを見極め、どのようなサービスを利用すれば解決できるかを、一緒に考えるようにしています。職員も見学時などに関わるようにし、多角的な視点で必要な支援を検討するよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に営むという認識のもと援助を行っております。ご自分で出来る事はご自分で、または職員と一緒に頂き、日々生きがいと楽しみのある生活づくりを、連帯感を持って支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状態を随時ご家族に報告して把握をして頂き、援助について一緒に考え、関わりを増やして頂けるようにしております。定期的に家族会を開催し、ご家族同士の交流も出来るような場を設けております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力して頂き、今までの生活が継続出来るように努めております。お茶の先生に来て頂き、習い事継続されている方もおられますが、十分とは言えない状況です。ご家族や馴染みの方々に来て頂き、心地よく過ごして頂けるよう対応に努めております。	利用者の帰宅実現のために家族への声かけを行い、前もって利用者の状態やケアの方法を伝え、利用者が数日間、帰宅することができ、外出する人数も増えた。家族と話し合い職員が同伴してお孫さんの結婚式に出席した。また、利用者の同窓生の訪問を促し語らいの場を設けるなど、馴染みの関係継続に取り組んでいる	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	職員も共同生活者の一人として、入居者様 を支えるようにしています。入居者様同士の 関係を把握し、職員が橋渡し役となって入 居者様同士が関わりあえるようにしており ます。気の合う入居者様同士で散歩に日常 的に参加、また外出を行っております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまで の関係性を大切にしながら、必要に応じて 本人・家族の経過をフォローし、相談や支 援に努めている	サービス利用終了(退去)後は担当ケア マネージャーやソーシャルワーカーの方々と 相談しながら、継続した関わりが必要な ケースについてはフォローしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向 の把握に努めている。困難な場合は、本人 本位に検討している	入居者様やご家族から生活歴を伺い、希 望や思いを把握するとともに、ご本人の 意向に沿うよう、プラン評価時に話し合 いをしております。また、困難な入居者 様には態度や表情などから把握するよう に努めております。	利用者について細目にわたるアセス メントと意向の把握に努め、利用者にと って「欠かせない要望や思いの把握」に 努め、計画に反映している。困難な場 合は生活歴や家族の話、利用者の表情 から汲み取り、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、 生活環境、これまでのサービス利用の経 過等の把握に努めている	入居相談、面談、契約時などに今まで の生活について伺うようにしております。 ご本人、ご家族、親戚や近所の方、ケ アマネージャーなどから様々な情報を 頂き、情報量を増やすよう努めてお ります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、 有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態やエピソードを個別介護 記録に出来る限り細やかに記載し、現 状を把握し、情報の共有に努めてお ります。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケア のあり方について、本人、家族、必要 な関係者と話し合い、それぞれの意見 やアイデアを反映し、現状に即した 介護計画を作成している	毎月、介護計画を作成し、入居者様、 ご家族、主治医などの意見を頂きなが ら、カンファレンスなどで話し合い、計 画作成しております。月の中途でも 必要に応じ、計画変更を行い、現状に 即した支援を心がけております。	訪問時に家族から直接話を聴き、生 活歴やアセスメント、日誌や申し送 り「ご意見ご要望カード」等を参考 に担当者がアセスメントをまとめる。 職員や関係者の意見を求め、ケア マネージャーが計画の原案を作成す る。原案を基に家族の意見を求め、 計画を作成し直している。月一度は 職員間で介護計画の振り返りを行 い、3ヶ月に一度モニタリングをし て計画の見直しを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づ きや工夫を個別記録に記入し、職員 間で情報を共有しながら実践や介護 計画の見直しに活かしている	既定の個別介護記録に日々の生活の 様子を記入しております。また、週一 回のカンファレンス、ケアプラン更 新時のモニタリングにて、介護計画 の見直しを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の受診や、ご希望の理美容院へはご家族対応となっておりますが、ご家族の状況により職員が行うなど、柔軟な対応が出来るようにしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その方の今までの生活、現在の状況において必要な場合は、民生委員の協力を仰ぐようにしております。また、ボランティアの方を積極的にお招きし、演奏会などを開催して頂いたりなど、潤いのある生活づくりを支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人およびご家族が医療機関の選定をされています。事業所としては、適切な医療を受けられるように助言などを行っております。かかりつけ医と訪問診療以外でも、細目に報告し、いつでも相談できるよう、連携しております。	利用者および家族が納得するかかりつけ医の受診支援を行なっている。家族の協力を得て受診する場合は情報を詳しく伝え、互いに連携している。前もってそれぞれのかかりつけ医と緊急時や夜間の対応の仕方について話し合い、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師や訪問看護と連携をとりながら健康管理を行っております。また、適切な受診や看護が受けられるよう、日々の生活の状態を把握し、情報の共有に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供書を作成し、ご本人の様子を説明しております。また、定期的にお見舞いに行き、状態を把握し、その際には担当医師、看護師、ソーシャルワーカー等とも話をする機会を設けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から話し合いの機会を持つようにしております。また、早期に話し合いを行い、重度化した際の指針を作成し、かかりつけ医・看護師と方針の共有に努めております。職員間で細やかに状態把握をし、援助を行っております。	早い段階から事業所でできることやできないことを伝え話し合っている。重度化した場合は指針に沿って医師や家族と話し合い、方針を共有している。終末期において家族が付き添うこともできる。また、協力病院の訪問看護部門と連携し、チームで支援している。他の利用者は隣人の死を受け入れ、敬意を表している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、マニュアルを作成し、研修を行っております。救急救命講習会への参加をするように心がけており、また、管轄消防署に依頼し、事業所で研修会を実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時の対応マニュアルの作成、更新を行っており、災害発生を想定した避難訓練を年2回、うち1回は地震想定での訓練を行っています。近隣の方々に避難訓練のご案内をしております。	年2回消防署の指導を受け、火災訓練や地震災害に対する訓練を行なっている。全職員が年1回は訓練に参加できるように勤務を組んでいる。また、ハザードマップを基に水害を想定した訓練やシミュレーションを行い備蓄の用意もできている。地域住民に避難訓練の参加と協力を呼びかけている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を守るような言動で接するようしております。また、定期的に接遇の研修を実施し、意識を高める仕組み作りを行っております。個人情報の取り扱いについては、個人情報保護法に基づいて取り扱いを行っております。	法人の行動指針に「高齢者の意思を尊重し、自立心を高めると共に、一人ひとりの生活を大切にしたいオーダーメイドケアを実現します。」と、掲げている。その為に、個別ケアの方向性を「自分の毎日は自分で決めること」とし、言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が理解し決定出来るよう、お一人お一人に合ったコミュニケーション手法により説明を行い、自己決定しやすい環境づくりにも留意しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活習慣や生活リズムに応じて援助をスケジュール化してはいますが、趣味活動など、その日の様子、希望によって臨機応変に対応するようにしております。また援助については交渉を行ったうえで行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好みに合わせ、着替えや化粧などの援助を行っております。美容院についても、ご本人の望まれる店に行けるよう、ご家族にも協力して頂いております。訪問美容を利用されている入居者様も多くいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	保健衛生上、通常の食事は配食会社への委託を行っておりますが、イベントとして食材の調達から調理までを行うようにしております。職員も一緒に食事をとり、入居者様の好みや状態に合った食事の提供と補助具の使用に心がけております。また、準備や片付けについては、入居者様に協力して頂きながら行っています。外食にてお好きなものを召し上がって頂き、喜んで頂いています。	職員も一緒に同じ食事を食べ、会話を楽しんでいる。歯ぐきで潰せるソフト食や舌で潰せるやわらか食を導入し、嚥下困難な利用者も状態に合わせて食事を楽しむことができるように支援している。また、料理教室を開催し、季節に合わせた巻き寿司やお菓子作りなどを楽しんでいる。2月から3ヶ月に一度バイキングや回転寿司などの外食に出かけることもある。晩酌などの嗜好品についても希望により楽しむことができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じた食事形態の工夫を行い、一度の食べる量が少ない方には補食を提供するなど、安全で美味しく食事が行えるよう取り組んでいます。その方の体調に応じて水分摂取量の記録を残し、一日を通じて確保出来るよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎の予防の為に一人一人の状況に応じた補助具を使用し、毎食後、口腔ケアや義歯管理の援助を行っております。また、必要な方には定期的に歯科衛生士によるケアも行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄障害のアセスメントを行い、一人一人の排泄パターンを把握し、また、排泄のサインを見極めてさり気なくトイレ誘導するなど、出来るだけ自然な形での排泄が行え、失禁の軽減に努めております。	「何が原因で排泄の障害を抱えているのか」と、利用者の理解に努め、サインを読み取り、タイミングを計り、さりげない声かけを行っている。手すりに赤いテープを貼るなどの工夫をし、トイレでの排泄支援に努めている。夜間はそれぞれの利用者にあわせ、ポータブルトイレや紙パンツ、パット等を使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールについて、薬剤だけに頼るのではなく、運動励行、水分摂取、乳製品の摂取など、生活面から一人一人に合った支援に取り組んでおります。便秘の原因について、医師に相談し、把握に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望の時間に入浴できるように配慮しております。入浴をアクティビティの一つと考え、湯の温度や入浴方法、好みの整髪剤や入浴剤の使用など、好みに応じて対応しております。	希望すれば毎日でも入浴できるが概ね週2回から3回の入浴支援を行なっている。利用者ごとにお湯を張り替え、好みの入浴剤や季節に合わせたゆず湯、菖蒲湯など「入浴は癒しの時間」と捉え、工夫している。冬季に足の冷えを訴える方に対して足浴支援を行なっている。利用者の介護度が上がり、座位を保てない利用者について機械浴の設備もあり清潔の保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるように温かい飲み物を提供したり、室内の温度や湿度、明るさの調節、日中に疲れ具合に応じて休息を取って頂く、など行っております。その方の生活習慣やご要望の就寝時間に沿って、援助を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご本人が飲んでいる薬の情報について確認し、また、薬剤師から説明を受けるなどして、理解に努めております。また、薬の変更時には状態の観察を特に行い、介護記録に記入しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を基本に、一人一人に合った役割を出来るだけ持って頂けるようにしております。料理教室やボランティア来訪など定期的に企画し、共有空間での生け花など、日々の生活の中での役割を大切にしながら、楽しみごとの演出も行うようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時間に限りはありますが、希望に応じて散歩や買い物などにお連れしています。希望を言われない方については定期的にお誘いしています。また、思い出の場所への外出やご帰宅、初詣やお花見、外食など、ご家族参加を含む外出を企画しております。	これまで生活していた思い出の場所へ出かけたり、季節に合わせ、初詣や花見などの外出行事を頻回に行っている。個別ケアとして、墓参りや家族が出品している華道展の見学など、希望に沿った支援をしている。一人での外出が可能な利用者について、家族と話し合いGPS機能がついた端末を持って自由に散歩ができるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族のご理解を頂き、個人でお金を所持しておられる方もおられます。ご要望に応じて買い物に同行し、お金を使えるよう支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のお取り次ぎを行ったり、ご要望に応じてご本人で電話をかけて頂く援助を行っております。携帯電話を使用されている方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光については入居者様にその都度聞きながら対応しております。共用空間の清掃を毎日行い、花を活けたり、季節感を味わえるような装飾を施し、心地よく過ごして頂けるように工夫しています。季節毎の飾りつけは入居者様にもして頂いています。	共用空間は広く、清潔で明るい。生け花や雛人形を飾り、くつろぎやすい雰囲気をつくっている。気の合った利用者同士で会話を楽しめるようにソファを配している。風通しが良く、心地よい時間を過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫し、一人で、または気の合った方達とゆっくり過ごせるスペースもあります。ベランダのプランターで花を育て、話が出来る環境づくりも行っております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具、写真や愛着のある物を持って来て頂けるよう取り組んでおります。また、ご本人が移動能力を活かして自由に動いて頂けるよう家具の配置を工夫したり、好みに合った用具を使用させて頂いています。	これまで和室で過ごしていた利用者について、畳を敷き、安全に移動できるようにポールを設置し、利用者の力を発揮しながら住み慣れた環境で生活できるように配慮している。読書の好きな利用者はテーブルとスタンドを持ち込み職員と共に家具の配置を決めるなど、その人らしい生活が営めるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースは広い空間となっている箇所が多く、安全とは言い難い面もあります。わかり易いようドアに目印をつけるなど、一人一人の生活動線の把握に努め、身体機能を活かして頂けるよう、工夫しております。		